

# はびきの市の市民大学

発行 はびきの市民大学 市民スタッフの会(記録グループ) 発行日 平成30年4月1日

## 学生通信

人気講座「しんかい6500の世界・地球について考える」

講師 大阪府立大学 大学院

教授 前川寛和氏に聞く

(日本沈没は有り得るか)

この講座は平成二十九年度後期講座中、受講希望者数が一番多かった人気講座でしたが、その理由は何処にあると思われますか。

前川氏 『しんかい6500の世界』というタイトルのせいではないでしょうか。全12回の内、「しんかい6500」の話は初回だけで、それ以外はサブタイトルの『地球について考える』の内容でした。「しんかい6500」の話を期待されていた方には申し訳なかったと思っています。

先生にはお忙し中、はびきの市民大学の講師をお引き受けいただいた訳ですが、どのような思いからだったのでしょうか。  
前川氏 地球科学の話を一般の方々にするのは、私自身の仕事の一環だと考えています。その機会をいただき有難く、また大変光栄なことだとも思っています。

12回の講義を終えられて、受講生に関してどのように感じられましたか。

前川氏 大変熱心に聞いていただき、話しいががありました。有り難うございました。

今回の講義の中で最も印象に残っていることは何でしょうか。

前川氏 皆さんの熱意に圧倒され続けた12回でした。毎回の講義では、全員の目線のシヤワーを浴びながら講義ができて、これほど教師冥利に尽きることはないと思っております。

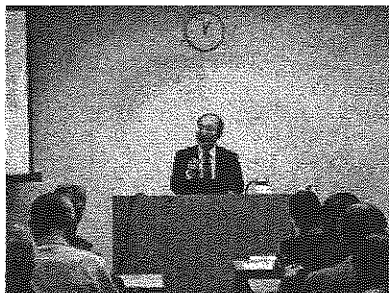
大学の学生と市民大学受講生とでは感じられた違いはありますか。

前川氏 大きな違いはありませんが、学生は単位をとらないと卒業できないという意識が何よりも最優先で、皆さんのように「学びたいから学ぶ」ということはその次になっているように思いますね。

先生は何度も深海調査をされておられますが、その中で特に記憶に

残ったことや感動された事はありましたか。

前川氏 マリアナ海域に行くと、コバルトブルーの限りなく美しい海に感動させられます。「ああ、この海で生命が育まれたんだ」と心底感動してしまいます。



また、「しんかい6500」や「かいこう」の運航に携わっているスタッフのチームワークの良さには感心させられました。これまで一度も事故は起こっていませんが、その完璧とまで

いえる徹底した整備体制が敷かれていることを目の当りにし、大いに納得させられたことですね。

「地球科学」分野の中で先生が一番興味のある事柄はどのような事でしょうか。

前川氏 地球科学に関わらず、何にも興味があります。いろいろなことを知りたいと思う気持ちは、子どもの頃から余り変わっていません。

人類が長きにわたって積み上げてきた「知」を、可能な限り知りたいと思っています。私が岩石学を始めた頃、今のような地球科学の進歩は全く予想できませんでした。地球科学の世界は深くて実に興味深い。この分野を専門にできて良かったと思っています。

最後にもう一つ、以前、小説や映画で「日本沈没」が話題となったことがありましたが、このようなことは有り得るのでしょうか。

前川氏 私が学生の頃、「構造地質学」のテストで「日本沈没について意見を述べよ」という問題が出たことがありました。私の回答は「これまで人類が培ってきた地質学の成果によって、日本沈没のような現象は決して起こらないことは明らかである」で正解でしたが、6500万年前のユカタン半島への隕石の衝突、複数の巨大噴火等のこれまでに地球上で起こったことを考えますと、日本沈没や大陸の沈降以上の変化が起こり得ることは、もはや明白だと思えます。

今回のインタビューで前川先生の色々な思いをきちんとお伝えすることができたか、少々不安に思っています。また、先生には、気軽にお付き合いただき感謝しています。

担当 至田義廣

